



無 題 (匿名希望)

私の母が大阪労災病院に入院しており、その際に売店で『いやしの広場』の原稿募集の案内を拝見して案内文をいただきました。

母は癌で余命宣告を受けております。その母が今の私をここまで育ててくれたことに感謝してメッセージを書かせていただきます。

私が小学生3年生の時に父が、事情があって自殺をしました。その時に母が私に諄々（じゅんじゅん）と説いてくれました。人の噂は75日と言って、噂の消えるときもある。けれども、これからの長い人生の中で、あなたが学校にはいるとき、就職するとき、結婚するときには、必ず、「あの家は、お父さんが自殺をしたからね」とそういうことがささやかれる。「え、そう。あの人、なんか暗いと思っていたら、やっぱりお父さん、自殺したの」と言う。そしてそのことを知らなかった人までが、そのお父さんの自殺を知ることによって、あなたの人生を駄目にする。それだけは避けることはできないよ、と言われました。

「じゃあ私は、どうして生きてらいいの」と母に聞いたら、それもね、乗り越えることはできる。それは1日、10人の人に、真心を込めてありがとうという挨拶をすること。1日に10人の人にありがとうという挨拶をしたら、1年間3,650人の人に素晴らしい行為ができることなんだよ」と、そのことを母は言ってくれました。

最初は半信半疑で言っていたけど、だんだん「ありがとう」という言葉を

使い出すと、一人一人のありがたさが見えてくる。そのありがたさが見えてくると、「ありがとう」だけじゃなく「暑いですね」とか「お元気ですか」「昨夜は眠れましたか」など、挨拶のボキャブラリーがどんどん増えてきます。生きることの喜び、生き生きとした感情というものが出てくる。それが出てくると、みんなの笑顔が見えてくる。1日10人のありがとうが、自分の世界を作ったといいました。

今では「明るく生きてるね」「立派なお母さんの教育だったね。すごいじゃないの」と、言ってくれます。そして、ふっとこの前、人の話を聞いたら自殺した父に対して、「お父さんはよっぽど辛いことがあったのだろうね」と、別の意味で父が死んだことまで評価されています。

私は今でも「ありがとう」という挨拶を続けています。大阪労災病院の先生、看護師さんへ「ありがとう」と挨拶しています。その母が間もなく旅立ちます。

お母さん、本当に今までも、これからも永遠に「ありがとう」。

